

RSCNews

Research Support Center

Rits
Ritsumeikan

創刊号 2006 No.1

Ritsumeikan University Center for Higher Education Research and Support News Letter



Message from the Director

ニュースレター発行にあたって

立命館大学 大学教育開発・支援センター長

佐藤 満 学校法人立命館 常務理事(教学担当)、政策科学部教授



大学教育開発・支援センター（以下、センターという）は、1998年に設置されて今年で8年目を迎えました。本年からは、高等教育学や比較教育学、大学教育学などを専門とする教員2名をお迎えして、その豊富な実践経験と確かな研究業績に基づいてセンターの運営を高度化させています。また、事務組織についても独立した課を立ち上げて、体制強化を図ってきました。

しかし、大学を巡る情勢は急速に変化しており、2006年には新学習指導要領のもとで教育を受けてきたいわゆる「ゆとり教育」世代の大学入学、2007年には大学収容定員と志願者が一致する「大学全入時代」が到来するなど、教育の質保証が今まで以上に問われる状況にあります。

本学では、2003年全学協議会において「確かな学力」を形成して「豊かな個性」を涵養する教育を進めることを確認しました。また、各学部が育成する学生像と教育目標を明確にして、評価・検証指標に基づく教育力強化に向けた取組を展開しています。センターでは、学生に対する教育活動を担う教員の教授

能力を向上させるための組織的な研究・研修であるファカルティ・ディベロップメント（FD）を推進するとともに、授業アンケートの活用を通じた教育方法の改善提案に加えて、教育分野における自己評価の実施・結果の解析、及び評価・検証システムの研究・開発や実践にも力を入れていきたいと考えています。そのためには、全学的視野に立った教育手法の開発・支援をおこなうための機能の充実・強化に加えて、各学部・教学機関とのネットワーク強化が緊急の課題だと考えています。

ニュースレターの発行が、これら課題を推進するために、本学の教職員、学生、学外関係者の皆様にセンターの活動内容を広く紹介する機会になることと、センターと学部・教学機関、教職員との連携強化につながることを期待してやみません。皆様のご期待に沿えるように発行して参りますので、末永くご愛読いただき、忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

CONTENTS

- P1> ニュースレター発行にあたって
- P2> 大学教育開発・支援センターとは
- P3> 所属教員の紹介

- P4> 「確かな学力」と「豊かな個性」の実現に向けて
- P6> 「教育実践フォーラム」開催のご案内
- P7> 2005年度これまでの取組、新着図書のお知らせ

- P8> 刊行物のご案内 ほか

大学教育開発・支援センターとは

設 立 の 目 的

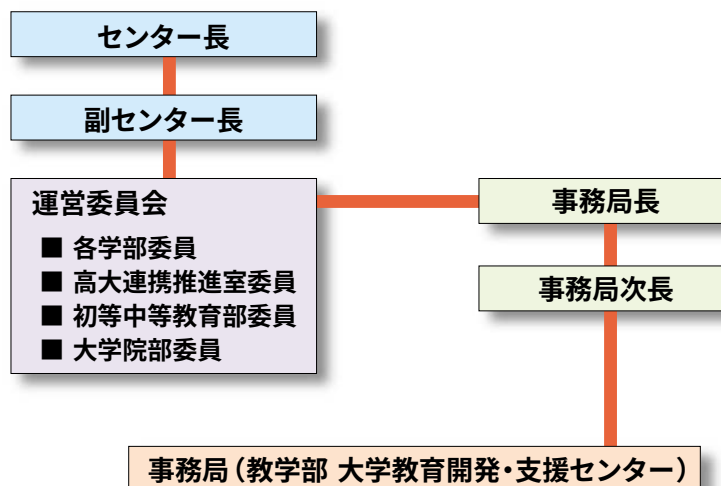


大学教育開発・支援センター（以下、センターと称す）の設立の目的については、佐々木嬉代三 初代センター長（前立命館大学副学長）が、2003年2月にセンター機関誌として「立命館高等教育研究」を発行するにあたって以下のように述べています。『センターは、前身の教育科学研究所大学教育研究室の活動を継承しつつ、研究内容を教学政策と結び付けて展開し、教学機関の一翼を担うものとして、1998年6月に発足しました。当初の活動目標は、①全学に共通する新しい教育システムの構築、②教育効果のアセスメント方法の開発、③学びの実態に関する基礎調査、④広義のファカルティ・ディベロップメントの展開等に置かれていました。その間に先進的教育実践支援制度を立ち上げ、インターンシップや高大連携の推進室を設けるなど、活動の幅を広げるとともに、教学の高度化を図ってきました』（冒頭挨拶から抜粋引用）。その後、インターンシップ業務は全学インターンシッ

プ教学委員会（事務局：インターンシップオフィス）に、高大連携業務は高大連携推進室運営委員会（事務局：高大連携推進事務室）に引き継がれるとともに、先進的教育実践支援制度は、教育力強化に向けた評価・検証指標に基づく教育力強化予算に拡充され・発展してきました。

その後、2003年全学協議会確認に基づき、「確かな学力」を基礎に「豊かな個性」を涵養する教育を進めるために、各学部が育成する学生像と教育目標を明確に示して、教育力強化に向けた取組を組織的に展開することが確認されたことを受けて、学生に対して直接教育活動をおこなう教員の教授能力を向上させるための組織的な研究・研修であるファカルティ・ディベロップメント（FD）の展開強化と、教育分野における評価・検証指標の導入に向けた検討をセンター活動目標の重点にしています。

■ センター組織図



所属教員の紹介



江原武一 (えはら たけかず)

教養学部の時はい理科系でしたが、教育学部と大学院では教育社会学を学びました。この20年間ほどは比較教育学を専攻して、学生の教育と研究に従事してきました。若い頃から関心のある研究領域は高等教育の国際比較です。日本とアメリカを中心に国際比較の観点から、大学政策、大学改革、入学者選考、大学教育（学部教育、大学院教育）、教育と研究のバランス、大学の管理運営などを実証的に調べてきました。転換期の大学改革で重要な役割を果たすことが期待される大学アドミニストレーターの育成についても、最近学びはじめました。

その他に、多文化教育や宗教教育、中等教育などに関する共同研究の経験があります。

専門分野

高等教育学、比較教育学

研究経歴

1971年4月 東京大学教育学部（教育社会学）助手
 1974年4月 奈良教育大学教育学部（教育社会学）講師
 1975年1月 奈良教育大学教育学部助教授
 1980年7月～1982年7月 「社会科学国際フェロシップ・プログラム」（国際文化会館）のフェローとして、米国のカリフォルニア大学バークレイ校およびハーバード大学教育学大学院に所属
 1984年4月 京都大学教育学部助教授
 1989年3月 文部省在外研究員として、英国のオックスフォード大学に所属
 1992年8月 京都大学教育学部（比較教育学講座）教授
 1998年4月 京都大学大学院教育学研究科（比較教育政策学講座）教授
 2005年3月 京都大学定年退職
 2005年4月 立命館大学教育学部大学教育開発・支援センター教授

主な著書

『大学の管理運営改革_日本の行方と諸外国の動向』（江原武一・杉本均編著、東信堂、2005年）
 『アメリカの大学』（江原武一著）
 （有本章他編著『高等教育概論—大学の基礎を学ぶ—』（MINERVA教職講座16）ミネルヴァ書房、2005年、148-158頁）
 『大学院の改革』（講座「21世紀の大学・高等教育を考える」第4巻）（江原武一・馬越徹編著、東信堂、2004年）



木野 茂 (きの しげる)

大阪市立大学で長い間、教養教育や理学部の専門教育に携わってきましたが、とくに最近の15年間ほどは大学設置基準の大綱化に始まる大学教育の改革を推進する立場で企画運営を担ってきました。

もともとの専攻は宇宙線物理学でしたが、途中から環境問題の研究に重点を移しました。教育改革では総合教育の充実と双方向型授業の実践と普及に努力してきました。

公立大学と私立大学の違いはありますが、立命館大学にはすぐれた職員体制と学生の教育への関わりという特長があります。教員、職員、学生のそれぞれの協力により、立命館大学の教育をより良いものにするため力を注ぎたいと思います。

専門分野

環境学、大学教育学

研究経歴

1966年4月 大阪市立大学理学部教員に就任
 1969年6月 理学博士（大阪市立大学）の学位取得
 1987年4月～1988年3月 大阪市立大学評議員
 1988年1月～1989年2月 大阪市立大学将来計画委員
 1992年11月～1994年3月 教育課程改革検討委員会ワーキンググループ委員
 1994年4月～1996年3月 大阪市立大学全学共通教育カリキュラム委員会副委員長
 1996年4月～1998年3月 大阪市立大学全学共通教育カリキュラム委員会委員長
 1998年4月～2000年3月 大阪市立大学大学教育検討委員会委員
 1999年4月～2000年9月 大阪市立大学基本計画検討委員
 2000年10月～2005年3月 大阪市立大学人権問題研究センター兼任研究員
 2003年4月～2005年3月 大阪市立大学大学教育研究センター専任研究員（理学部より移籍）、同副所長
 2005年3月 大阪市立大学定年退職
 2005年7月 立命館大学教育学部大学教育開発・支援センター教授

主な著書

『大学授業改善の手引き—双方向型授業への誘い』（木野茂著、ナカニシヤ出版、2005年）
 『新版 環境と人間—公害に学ぶ』（木野茂編著、東京教学社、2001年）
 『新・水俣まんだら—チソ水俣病関西訴訟の患者たち』（木野茂、山中由紀著、緑風出版、2001年）

「確かな学力」と「豊かな個性」の実現に向けて

大学教育開発・支援センターは、学生に「確かな学力」と「豊かな個性」を身に付けることを目指した教育力強化の実現に向けて、学部・教学機関、教員、学生のサポートに日々取り組んでいます。

2005年度センターの活動内容

活動内容の説明

1 授業アンケート

本学では、授業・教学改善に資することを目的に、全学の教員と学生を対象に前期・後期セメスターにそれぞれ授業アンケートを実施しています。学生への説明責任を果たすため公開を原則にし、毎年その内容や実施方法の改善・工夫を進めています。

2 教育実践フォーラム

2002年度より、①個別教員の成果を全学に紹介し共有すること、②大学教育をめぐる教職員、院生、学生が同じテーブルで意見交換すること、③立命館大学の日常的教育実践を題材にし、参加者がリアリティをもって議論すること、に焦点を当てて教育実践フォーラムを実施しています。学生実態や教育に関する社会情勢を把握した上で、教育力強化にむけた課題の解決策を具体的に見出し、組織的に対応していくことを目指しています。

3 シラバスの抜本的見直し

2003年度の全学協議会の確認や2007年度に大学全入時代が到来することを踏まえて、シラバスの抜本的な見直しをおこない、学生の確かな学力形成につながるシラバスにしていくことを目指しています。また、教育内容に関する第三者評価の比重が高まっていることを受けて、大学基準協会の指摘を踏まえた見直しに向けた検討をおこなっています。

4 公開授業と研究会

本学では、2003年度から本センターが主催する形で、「公開授業」と公開授業終了後に参加者が意見交換することで相互研修の場とする「研究会」をおこない、教授法改善に取り組んでいます。今年度からは、学部教学の特性を踏まえ、学部・教学機関が主体となって公開授業と研究会を実施し、本センターは実施マニュアルを作成する等してその支援をおこなっています。

5 ES制度の高度化

本学では、学生同士が学び合い、互いに成長する仕組みを「ピア・エデュケーション」と呼び、様々な教育現場で活躍する学生スタッフを組織化しています。2004年度からは、正課授業において学部学生が学部学生を支援する「ES (Educational Supporter; 教育サポーター) 制度」の取組を開始しました。

6 教育IT化の支援

教育IT化の支援策の一つとして、QRコードを利用した出席・小テスト管理システムを構築しています。これは、科目を担当する教員の負担を増やすことなく出席管理を導入することを可能とし、成績評価を多様化させ、日常点評価を含めたきめ細やかな評価を実現することを目指しています。

確かな学力・

学部
教学機関

学

学部・教学機関をサポート

- ⑦ 新入生の学力調査
- ⑧ 評価・検証指標の作成と提供
- ⑨ 教育カリキュラムの調査・分析
- 教学課題に関するヒアリングや支援

学部・教学機関、教員をサポート

- ⑥ 教育IT化の支援
- 紀要「立命館高等教育研究」の発行
- 高等教育に関わる書籍の貸出

全体をサポート

- ① 授業アンケート
- ② 教育実践フォーラム
- ③ シラバスの抜本的見直し

大学 開発・支援

豊かな個性

生

教 員

教員をサポート

- ⑩ 教員研修の実施
- ⑪ FD関連の学会等の案内、参加支援

公開授業と研究会
ES制度の高度化
TA制度の改善

- HP・ニュースレターを通じた
情報発信

大学教育
開発・支援センター

7 新入生の学力調査

本学入学者の学力実態の正確な把握に努め、それを踏まえた教育改善を進めるため、新入生の学力実態調査をおこなっています。調査結果を全学に提供することにより、各学部や各機関において検討されている導入期教育や1回生カリキュラムの見直しに資するものになりたいと考えています。

8 評価・検証指標の作成と提供

「確かな学力」を形成し、「豊かな個性」を涵養するためには、それぞれの学部・研究科や教学機関が教学目标を明確にして、目標の達成を客観的に確認するための指標を設定することが必要です。教学目标を明確にすることを通じて教育目標が絞り込まれ、教育資源の重点配分が可能になるとともに、評価・検証の指標を明確にすれば、学部・研究科が進める取組がどのような成果を生み出しているのかを明らかにできます。センターではこの評価・検証の指標づくりに取り組んでいます。

9 教育カリキュラムの調査・分析

大学教育に対する評価が事後評価に重きを置かれたことを受けて、新たな教育カリキュラムの導入がどのような教育効果をもたらしたかを具体的に評価・検証する必要があります。これまで定性的・抽象的なものとして捉えがちであった教育効果を、定量的・客観的な指標によって中長期的に測っていくことで、今後のカリキュラム改善の方向性を提言していきたいと考えています。

10 教員研修の実施

大学がユニバーサル化を迎えると、学生の学力と学習意欲が「低下」するとともに、学力格差が拡大すると言われています。学生に学びの動機付けを与え、確かな学力をつけさせるためには、個々の教員が教育能力を高めることが求められます。そこで、専任教員や非常勤講師、新任教員、TA・ES、などを対象にした研修を順次実施する予定です。

11 FD関連の学会等の案内、参加支援

他大学や他機関のFDに関連する学会ならびにシンポジウム等の案内をホームページ上でおこない、個々の教員のFDに対する意識を高めることを目指しています。学内の教員に対しては、参加費や交通費を補助しています。

「教育実践フォーラム」開催のご案内

大学教育開発・支援センターでは、教育実践フォーラムの2005年度共通テーマを「ユニバーサル段階を迎える大学全入時代にむけて教育力強化の課題を考える」として、理系・文社系の違いを考慮し、これまで数回に渡り開催してきました。今年度は第5回、第6回を残すのみとなります。皆様の積極的なご参加をお待ちしています！

2005年度 第5回 教育実践フォーラム

テーマ 学生の学習意欲を引き出す成績評価公開とは(仮)

2006年1月開催予定

大学のユニバーサル化が急速に進む中で、学生の学習意欲を引き出すことが非常に重要になっています。また、大学の評価が事後評価に重きが置かれる中で、学生に確かな学力を付けさせることが重要であり、その学力を示す成績評価の客観性や公平性が強く求められています。このような中で、成績評価の公開はその有効な手段の一つとして注目されており、その動きは全国的に広がっています。本学でも、法学部が2005年度から成績評価の公開に踏み込んでおり、今回のフォーラムを通して他大学や学内の関係者から報告を求め、今後の成績公開のあり方を探りたいと思います。



(第4回教育実践フォーラムより)

2005年度 第6回 教育実践フォーラム

テーマ 評価を教育力強化につなげる方法(仮)

2006年3月開催予定

高等教育情勢の変化を受けて、本学では2005年度より「教育力強化に向けた評価・検証指標制度」を導入し、各学部・教学機関の教育予算の一部を評価・検証指標の設定状況によって配分する方法に改めました。こうしたPDCAサイクルの考え方に基づいた教育プログラム運営の考え方は、文部科学省が実施する特色GPや現代GPの中でも申請時に必須とされています。第6回のフォーラムでは、今後本学においてPDCAサイクルの考え方に根ざした教学改善を進めていくために、他大学や学内の関係者から報告を求め、その考え方や重要性を共有したいと思います。



(第3回教育実践フォーラムより)

(詳細が決定次第、ホームページなどでご案内します。)

新着図書のお知らせ



FD関連の書籍を多数収集し、学内の教職員の方に貸出をおこなっています。センターに直接お越しになるか、または、ホームページに蔵書リストを掲載していますので、ご希望の本があればメールまたはお電話でご連絡ください。学内便でお届けします。



新着図書情報

大学授業改善の手引き



大学授業改善の手引き：双方向型授業への誘い

木野茂著
ナカニシヤ出版
2005.2/4-88848-942-4



国立大学法人化の衝撃と私大の挑戦

早田幸政編
エイデル研究所
2005.2/4-87168-384-2

■ 2005年度これまでの取組

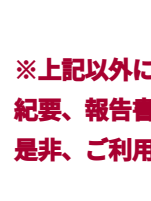
詳しくはHPをご覧ください

月日	活動内容	月日	活動内容
4月 1日(金)	大学教育開発・支援センター課として開設 二次元コード(QRコード)「提出物管理システム」の運用開始	10月 25日(火)	教職員対象フォーラム開催 テーマ：『職員による教育力強化』 講 師：安井元規氏(慶応義塾大学出版会)
22日(金)	第1回岡本行夫客員教授前期連続講演会 テーマ：『日本の常識・世界の非常識』	27日(木)	第1回岡本行夫客員教授後期連続講演会 テーマ：『世界を知らない『日本病』』
5月 31日(火)	第2回岡本行夫客員教授前期連続講演会 テーマ：『日中友好は可能なのか』	27日(木)・31日(月)	理工学部「公開授業・研究会」開催
31日(火)	2005年度 第1回 教育実践フォーラム開催 テーマ：『学生と教員の円滑なコミュニケーション形成に向けて』 基調報告：永田俊代氏(学生サポートルームカウンセラー)	11月 8日(火)	第2回岡本行夫客員教授後期連続講演会 テーマ：『日本の国際社会とのかかわりこの100年』
6月 1日(水)	『わたしたち、困っています!』発行	10日(木)	理工学部「公開授業・研究会」開催
16日(木)	前期授業アンケート実施(～22日)	11日(金)	文学部「公開授業・研究会」開催
22日(水)	第3回岡本行夫客員教授前期連続講演会 テーマ：『東アジアの安全保障の仕組み』	14日(月)・17日(木)	経営学部「公開授業・研究会」開催
30日(木)	『立命館高等教育研究』第5号発行	15日(火)・16日(水)	理工学部「公開授業・研究会」開催
28日(火)・7月5日(火)	2005年度 第2回 教育実践フォーラム開催 テーマ：『学生の学習意欲を引き出す大規模講義の教授法』 [理工系] 基調報告：三浦真琴氏(静岡大学 大学教育センター教授) [文社系] 基調報告：原清治氏(佛教大学 教育学部教授)	16日(水)	国際インスティテュート公開授業開催
9日(土)	法学部「公開授業・研究会」開催	17日(木)	情報理工学部「公開授業・研究会」開催
13日(水)	2004年度先進的教育実践賞授与式		政策科学部2005年度研究入門フォーラム中間発表会開催
14日(木)・20日(水)	産業社会学部「公開授業・研究会」開催	22日(火)	経済学部「公開授業・研究会」開催
10月11日(火)・18日(火)	2005年度 第3回 教育実践フォーラム開催 テーマ：『高校生の学習実態から知る導入期教育の重要性』 [理工系] 基調報告：大竹真一氏(河合文化教育研究所研究員) [文社系] 基調報告：松本孝子氏(駿台予備校講師)	25日(金)～12月2日(金)	[衣笠] 言語教育センター「公開授業・研究会」開催
11日(火)	「国際社会で活躍する人材養成特別プログラム」開校式	28日(月)	後期授業アンケート実施(～12月2日)
24日(月)	教職員対象フォーラム開催 テーマ：『教学創造を担う』 講 師：高木直二氏(早稲田大学理事)	30日(水)	2005年度 第4回 教育実践フォーラム開催 テーマ：『学生参画型の授業改善法』 基調報告：橋本勝氏(岡山大学 教育開発センター教授)
		12月 3日(土)	国際関係学部「公開授業・研究会」開催
		5日(月)・7日(水)	法学部後期授業懇談会開催
		12日(金)～16日(金)	[BKC] 言語教育センター「公開授業・研究会」開催
		14日(水)	第3回 岡本行夫客員教授後期連続講演会 テーマ：『国家の安全保障』
		17日(土)	産業社会学部基礎演習研究成果発表会開催

※太字はセンター主催の取組です。

授業デザインの最前線：
理論と実践をつなぐ
知のコラボレーション高垣マユミ編著
北大路書房
2005.3/4-7628-2423-2

大学講義の改革

宇田光著
北大路書房
2005.5/4-7628-2442-9シカゴ大学教授法ハンドブック
(高等教育シリーズ 131)アラン・プリנקリほか著
玉川大学出版部
2005.5/4-472-40321-8大学の管理運営改革—
日本の行方と諸外国の動向江原武一・杉本均編著
東信堂
2005.3/4-88713-596-3広げる知の世界：
大学でのまなびのレッスン北尾謙治ほか著
ひつじ書房
2005.5/4-89476-242-0※上記以外に毎月最新のFD関連の雑誌、
紀要、報告書などを追加しています。
是非、ご利用ください。

刊行物のご案内

『立命館高等教育研究』

大学教育開発・支援センターでは、紀要『立命館高等教育研究』を発行しています。

立命館大学および立命館学園の教育や教育実践に関する論文及び報告を掲載しています。現在、第7号に掲載する論文を募集していますので、学内教職員の皆様からの多数のご応募をお待ちしています。詳しくは大学教育開発・支援センターまでご連絡ください。



『わたしたち、困っています!』

(RAINBOW Staff編／大学教育開発・支援センター、情報システム課発行)

今年6月、学生の視点からみたIT活用方法を提案した冊子『わたしたち、困っています!』を発行しました。学生の視点からみた、プラズマディスプレイ、パワーポイント、小テスト、補助教材などの使い方や作成方法について具体的提案をしています。授業運営の際、是非、参考資料としてご利用ください。



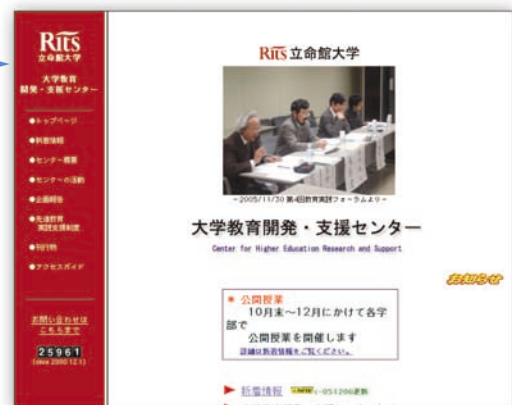
学内外の優れた教育実践の情報をつかむ場として、本センターの刊行物・図書を是非ご利用ください。

ホームページ紹介

最新の企画案内や企画報告、図書資料の案内をホームページで公開していますので、ご覧ください。また、他機関・他大学の講演会や研究会の案内もしています。



立命館大学ホームページ右上にある
機構・研究・センターホームページより
大学教育開発・支援センターを選択してください。



大学教育開発・支援センターのHPアドレスはこちらです。
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/cer/>

大学教育開発・支援センター (学而館1階)



交通アクセス

- JR・近鉄京都駅から
市バス50 / 快速205にて(約35分)「立命館大学前(終点)」下車
市バス205にて(約35分)「衣笠校前」下車、徒歩10分
- JR二条駅から
市バス15号、55号にて(約15分)「立命館大学前(終点)」下車
- 阪急電車西院駅から
市バス快速202 / 快速205にて(約20分)「立命館大学前(終点)」下車
市バス205にて(約20分)「衣笠校前」下車、徒歩10分
- 阪急電車河原町駅(四条河原町)から
市バス12 / 51にて(約40分)「立命館大学前(終点)」下車
- 京阪電車三条駅から
市バス15 / 59にて(約30分)「立命館大学前」下車(市バス15は終点)
- 京福電車等持院駅から
徒歩10分

RITS 立命館大学
大学教育開発・支援センター

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL : 075-465-8304 FAX : 075-465-8318

e-mail : fd71cer@st.ritsumei.ac.jp <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/cer/>